

J04b **1994年11月3日の皆既日食の観測成果**

奥村雅之、加藤剛、片山真人

1994年11月3日のチリ皆既日食において、記録装置を従来の16mm撮影機からCCDビデオカメラに変更し、閃光分光器を用いたスペクトル連続撮影法による接触時刻観測を行った。

この方法には、観測波長の画面上での位置決定や焦点調整をリアルタイムに行える、画面上に直接時刻が記録できる、ビデオ信号を静止させてデジタル化し、パソコンレベルで処理できるといった利点があり、これまで多大な労力を要していた調整及び解析の作業効率を向上させることができた。

久保らの方法(水路部研究報告 29,99-117 (1993))によって整約した結果、太陽と月の位置及び視半径の相対値について天体位置表の表値に施すべき下記の改正量を得た。

$$\Delta(\lambda_S - \lambda_M) = +0.49'' \pm 0.15''$$

$$\Delta(\beta_S - \beta_M) = +0.32'' \pm 0.19''$$

$$\Delta(r_S - r_M) = -0.10'' \pm 0.02''$$